

東京湾に

「原発」がある!

福島原発事故は、首都圏を含む広範囲に被害・影響を及ぼしました。それでも、東京から福島は遠いと思っている人たちは多いと思います。

しかし、東京湾にも「原発」はあるのです。それは、横須賀を母港とするアメリカの原子力航空母艦であり、原子力潜水艦です。

横須賀は、原子力空母「ジョージ・ワシントン」の母港とされ、整備や修理のための核関連施設も、日本国民の税金でつくられています。

ジョージ・ワシントンは、福島原発事故の際、放射能汚染によって乗務員が被ばくしたら困ると、長崎県の佐世保港まで避難していました。

(月刊学習 10月号・吉井英勝衆議院議員の講演より)



(八) オンダシ河原

オンダシ河原 一八八四年一〇月三

一日午後六時過ぎ、大野福次郎率いる風布困民党先発隊と大宮郷警察署長斉藤警部率いる警官隊がオンダシ河原で「遭遇」する事件が起きました。

大野福次郎側は一六人、白鉢巻・襷掛け、うち七人は「鳥銃」を持ち、他は帯剣・長刀・竹槍の出で立ちました。警官隊は斉藤警部以下、大宮郷警察署坪山警部補他巡查一〇名でした。

この時、福次郎は上日野沢の者に「脅迫」されて止む無く同地から下吉田の棕神社に行くところだと答えましたが、斉藤警部らは、「その損得」を言い聞かせ、「保護」してやろうと言うと、福次郎らはこれに素直に応じたとのことでした。

午後七時頃、福次郎ら二人は、皆野村戸長・小池槌蔵宅に連行された(途中四人逃亡)、警察は巡查三人・雇いの人夫一五人を配置し警護しました(秩父暴動始末三)。午後八時頃の釜伏山の「号砲(花火)」を合図に風布困民党が上日野沢村小前に向けて出発する約一時間前、金崎の永保社「襲撃」の約三時間前のことでした。本稿では、①「オンダシ河原」はど

皆野町の秩父事件⑪

ういう場所だったか、②大野福次郎の行き先と、その目的、③小池戸長宅で見つかった大野福次郎文書について述べたいと思います。

オンダシ河原 親鼻橋の下流約一二〇メートルの荒川右岸に三沢川が流れ込んで

います。三沢川の「押し出し」により出来た河原がオンダシ河原で、夏は大勢の観光客で賑わいます。親鼻橋下は長瀬ライン下りの出発地になっており、親鼻橋上流七〇メートルには、有名な「紅簾石片岩」の露頭があり、ジオパーク秩父が「日本ジオパーク」に指定されて以来多くの人が訪れるようになりました。

長瀬対岸道路から親鼻橋南詰へは、現在田野沢橋―秩父鉄道踏切―下田野橋―親鼻橋南詰とほぼ直線ですが、一九〇七年測図・五万分の一「寄居」を見ると、田野沢橋―下田野公会堂間の道はありません。小滝から下田野公会堂方向に進み、公会堂東で現在の町道に出ました。その先地形図は三沢川を越えています。橋記号はありませんが、この時、先代の下田野



橋は架かっていたようです。

下田野橋から上流の三沢川は深いU字谷になっています。秩父事件当時下野橋はなく、そのため、親鼻橋南詰辺からオンダシ河原に下り、三沢川右岸の下田野側に上り返したと思います。三沢川河口に「土橋」があったかも知れません。本野上分署長・雨宮警部補が、戸長宅で大野福次郎聴取の際、オンダシ河原は「皆野村の要所」(前掲文書)と言っているとおり、オンダシ河原は、単なる河原ではなく親鼻―下田野の「道路」だったのです。



(オンダシ河原)

新米議員のひとりごと

常山 知子

埼玉県町村議会議員研修会が、県の町村議会議長会の主催で10月12日に吉見町で行われたので参加しました。「大震災と原発事故から一年半―被災地・福島の今」と題して、福島民報社報道部長早川氏の講演でした。

損傷した原子炉建屋、高い放射線量で撤去作業などが進まない3号機。写し出させる映像は報道関係者の告発だと感じました。野田首相の「事故収束」宣言がいかにか実態とかけ離れているか。

復興が進まない「ふくしま」。ふるりに帰りたくても帰れない住民のくやしき。行き場のない汚泥とガレキ、賠償問題。書きつくすことができないほどの問題があります。最近の報道に怒っています。「震災復興」と増税をし、その復興予算が被災地の再建とは無関係な事業に使われていることです。

早川氏は最後に言いました。「忘れないでほしい」と。